

# 通販、デニムに広がり

## 備後撚糸・和紙布 ニットも試作へ

備後撚糸（広島県福山市、光成猛社長）が開発した水撚り製法による和紙糸を使った和紙布が広がりを見せている。和紙布

を用いたバッグ、ストールの販売が25日から4代以上をターゲットにした通販で開始された。カジユアル向け「ブロンライ

ト」、手描き友禅など本格的なものづくりは「光」と、それぞれ独自のブランド名を冠している。上代価格は手描き友禅を施したバッグが4万8500円、柿渋の手染めストールが1万2800円。

昨年、5000着分を受注したデニム向けも3000着分を追加受注した。きものの端切れを縫った和柄デニムに使われ、上代価格も3万4

万円と高価だが好評だ。デニムでは現在、上代価格が2万円以上する複数

ブランドから引き合いが来ており、商談を進めて

いる。

和紙デニムの価格はシヤトル織機で織った耳つきデニムの場合1枚当たり1200〜1400円。和紙糸をヨコ糸に打ち込んである。今年、スペインで開催された「ブレット&バター」も出展社を通じ展示した関係で、海外ブランドからの引き合いもあるという。

帆布も開発した。タテに綿、ヨコに8番手の和紙糸を4本撚ったものを打ち込んでいる。綿スラブ糸を複合させたものもあり、独特の凹凸を生んでいる。

和紙糸は8番手から30〜40番手まで生産が可能。来春夏向けにニットへの要望があり、ニットの試作に取り組み。壁紙や雑貨、メモ帳の表紙など文具関係への展開も検

討。伸度のある糸など和紙素材のバリエーションを広げていく考えだ。

備後撚糸は、百貨店の催事や着物の展示会などへの出展含め地道に顧客を広げている。今後、トータル的に展開する考えで自社ブランドを立ち上げ、HPを通じて販売する予定。

3月期は減収減益と不振。和紙布という商材で新しい事業として成長させていく方針だ。